

資料3

# 滋賀県産業振興ビジョン（改定版） ＜骨子案＞

滋賀県商工観光労働部商工政策課  
令和元年（2019年）5月

# <骨子案> ポイント整理



- 本県の産業振興のコンセプトを明確化  
～「キーメッセージ」を設定  
ミッション(使命)、ビジョン(目指す姿)、バリュー(価値観)を定義
- SDGsを取り込み、バックカスティングでの政策立案をめざす
- 滋賀県が有する特徴(強み弱み)を活かす取組を強化
- 様々な主体の共創のもと、ビジネスの本業を通じて、持続可能な社会の構築につながる、新たなチャレンジを応援
- モニタリングに加え、新たな政策評価手法を提案

# 産業振興ビジョンのコンセプト（1）



滋賀県基本構想 “変わる滋賀 続く幸せ”

— キーメッセージ —

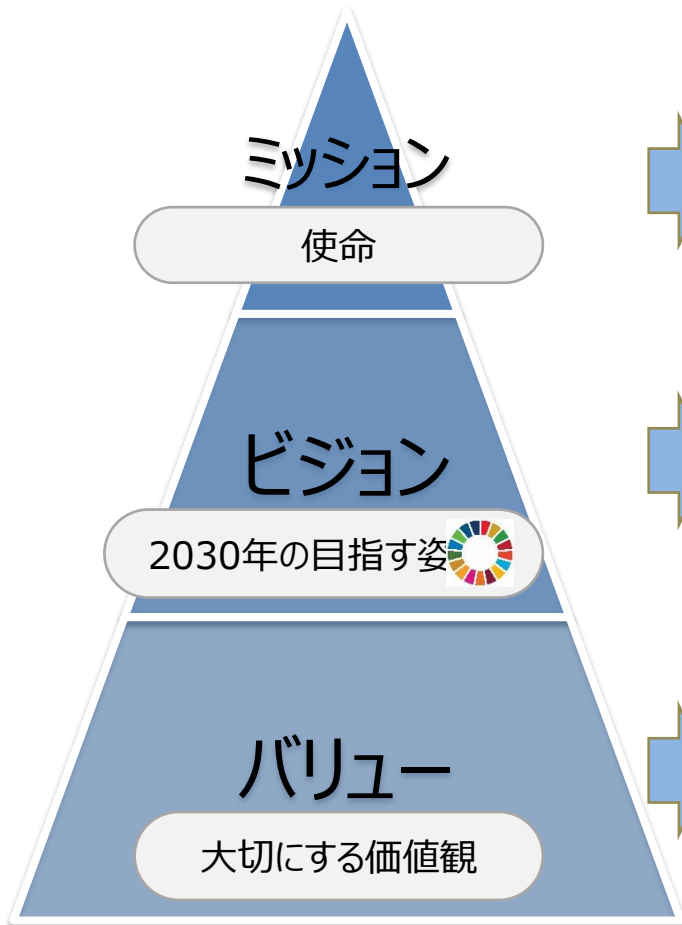
## チェンジへのチャレンジを応援！！

世の中が複雑に変わっていくなか、将来への見通しが困難を極め、正解が見えない社会でどう「新たな価値」を生み出せば良いのでしょうか？

リスクを恐れずに、新しいテクノロジーを活用し、今まで以上のコラボレーションを実現し、失敗を許容し、もがき続けることで、光る何かが生まれるのです。

# 産業振興ビジョンのコンセプト（2）

## チェンジへのチャレンジを応援！！



“人”や“モノ”のボーダレスなつながりを通して、滋賀から、世界が抱える社会的課題の解決策を提案し、持続可能な社会の構築につながる産業の発展に貢献します！※

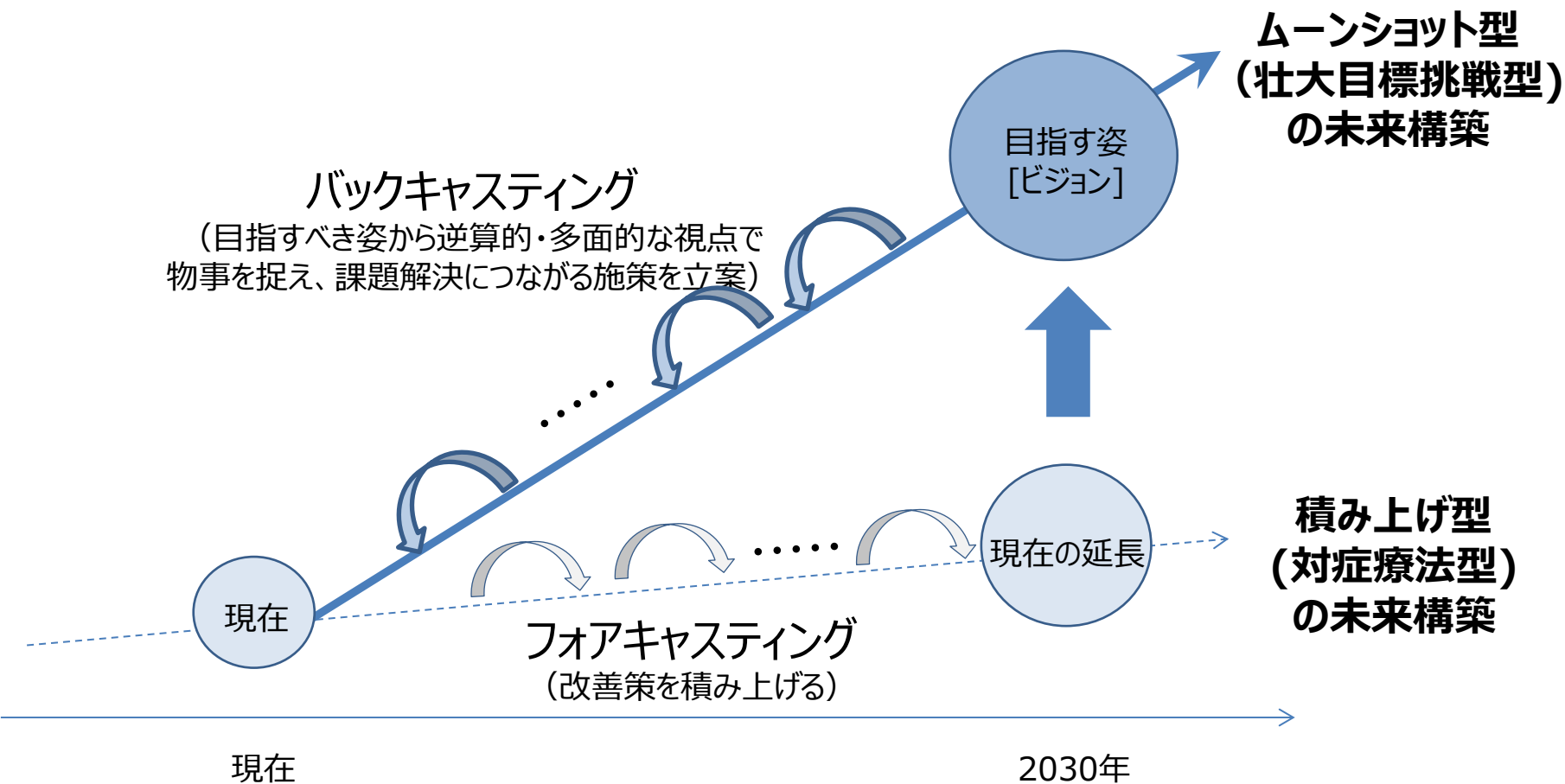
新しいテクノロジーやサービスの創出、積極的なコラボレーション、進化するインフラを活用して、「新たなチャレンジ」が日本で一番行いやすい県、「社会的課題」をビジネスで解決し続ける県を目指します！

- 琵琶湖をはじめとした自然環境を守り、活かし、支える循環共生型社会
- 「三方よし」、「忘己利他」、「一隅を照らす」等、先人から受け継ぐ精神
- 持続可能な経済のもと、人の幸せ、社会の幸せ、自然の幸せを追求
- 前例にとらわれない思い切り - システム思考・デザイン思考へ

# 2030年の目指す姿からのバックキャストिंग



滋賀県基本構想の基本理念・目指す姿の実現を図るため、2030年の目指す姿からのバックキャストिंगの手法により、「時代の潮流」、「インフラの発展」、「滋賀県の差別化要素（特徴）」を踏まえ、チャレンジを支援する産業振興の基本的方向を定めます。



人口動態の変化、次々生まれる新しいテクノロジー、世界規模の環境変化といった**大きな流れを的確にとらえ、**チェンジを促進し**「新しい価値」**を生み出していく必要があります。

## 人

### 人口減少と高齢化の進行

- 人口減少と高齢化は全国より少し遅れて、しかし確実に深刻化
- 様々な分野の人材不足による県内産業や医療・福祉への影響

## 経済・社会

### 第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現

- 国内市場の縮小による県内産業への影響
- 事業承継が進まない場合の地域生活への影響
- 農林水産業の縮小
- 第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現による経済や社会への影響
- AI、IoT等の技術革新への対応が遅れた場合の産業の競争優位性の低下

## 環境

### 自然環境と災害

- 人間活動に起因する地球温暖化の深刻化
- パリ協定の発効による世界的な脱炭素化の流れ
- エネルギーの安定的な確保、新しいエネルギー社会の実現
- 生態系のバランスの変化
- 多発する大規模災害

想定されるインフラの発展に積極的に貢献するとともに、インフラの発展を産業振興に活用します。

## 想定されるインフラの発展

### 社会 インフラ

- ・ リニア新幹線等の鉄道網
- ・ ドローン等の航空交通網
- ・ 自動運転
- ・ 宇宙インフラの拡大

### IT インフラ

- ・ 通信環境
- ・ データ活用や自動化促進
- ・ モバイル機器
- ・ VR・AR
- ・ キャッシュレス

### 生活 インフラ

- ・ ワイヤレス電力伝送
- ・ ロボットの社会実装
- ・ 遠隔医療
- ・ 水素等エネルギー活用
- ・ スポーツ施設

インフラが発展することで、事業への取り組み方、生活のあり方が変わるだけでなく、**新しい産業**が創出され、**新たな価値**も生み出されています。

- ・ 移動の時間短縮化・多様化による施設効果
- ・ シェアリングエコノミーの拡大
- ・ Z世代（1990年後半から2000年代半ば生まれ）に代表される高い社会問題意識をもつ世代の台頭

# (参考資料) 滋賀県を中心に見たインフラの発展

- ・北陸新幹線は、金沢～敦賀が2022年度に開業予定。
- ・リニア中央新幹線は、東京（品川）～名古屋が2027年、大阪が2045年に開業予定。
- ・高速道路は、新名神高速道路の神戸JCTから大津JCTが2024年3月全線開通予定。



## 【社会インフラ】

- ・ リニア新幹線等の鉄道網
- ・ ドローン等の航空交通網
- ・ 自動運転
- ・ 宇宙インフラの拡大

## 【ITインフラ】

- ・ 通信環境
- ・ データ活用や自動化促進
- ・ モバイル機器
- ・ VR・AR
- ・ キャッシュレス

## 【生活インフラ】

- ・ ワイヤレス電力伝送
- ・ ロボットの社会実装
- ・ 遠隔医療
- ・ 水素等エネルギー活用
- ・ スポーツ施設

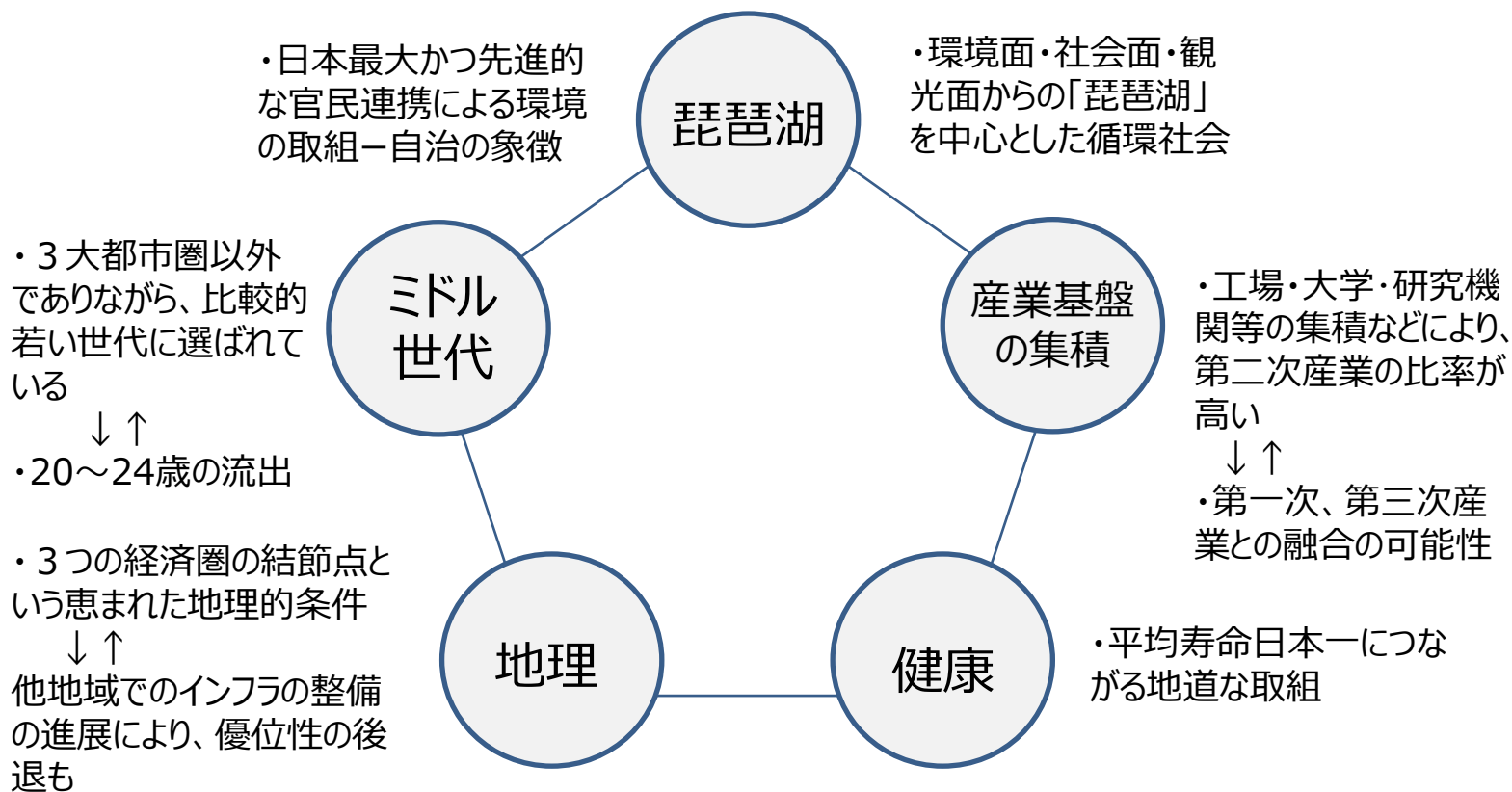


# 滋賀県の差別化要素（特徴）



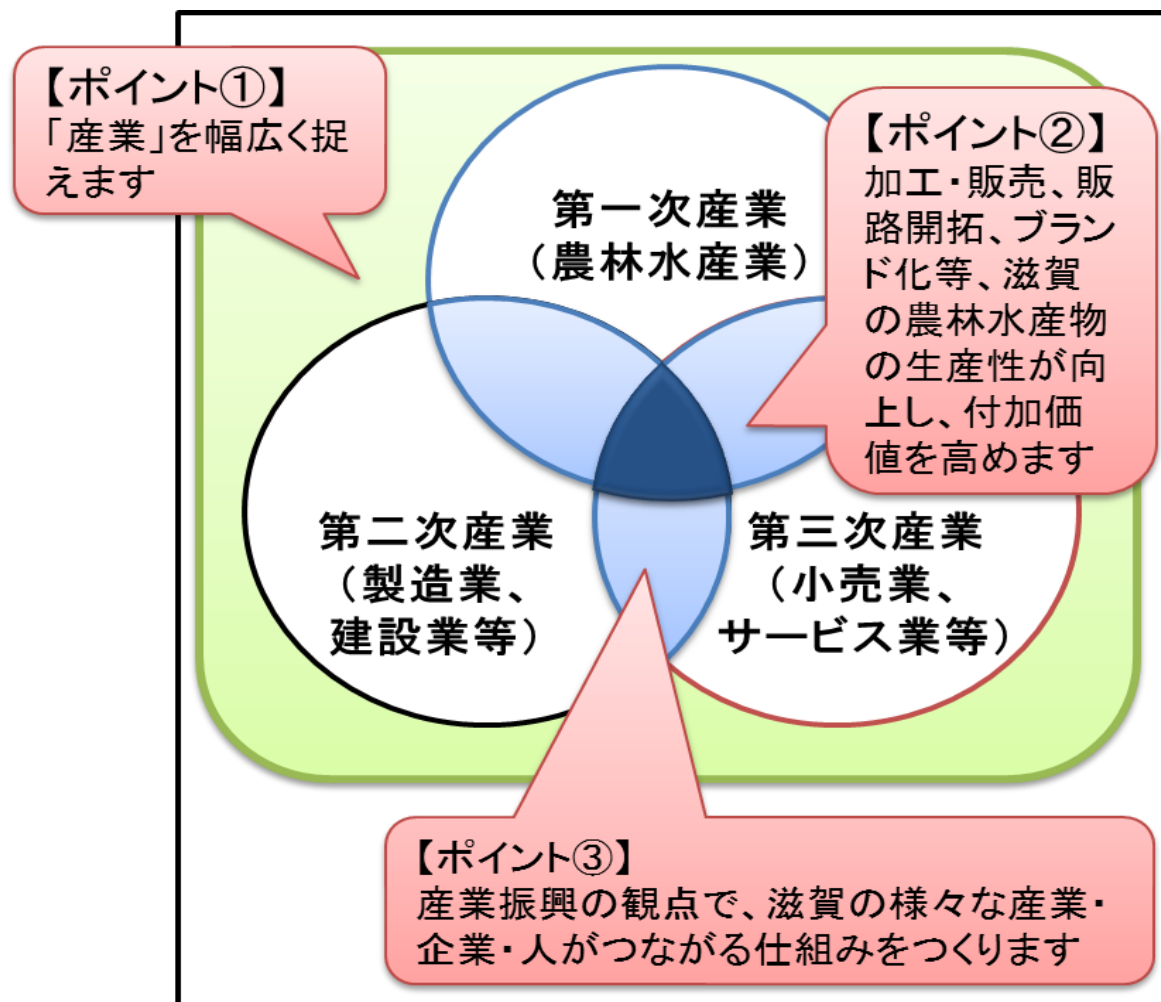
滋賀県の差別化要素（特徴）を生かし、強みをさらに伸ばし、弱みを克服するような民間のチャレンジを積極的に支援します。

## 滋賀県の持つ優位性（可能性）



# 産業振興の基本的方向（1）

「産業」を広く捉え、従来の産業区分（第一次産業、第二次産業、第三次産業）に捉われない、「新しい産業」を志向します。

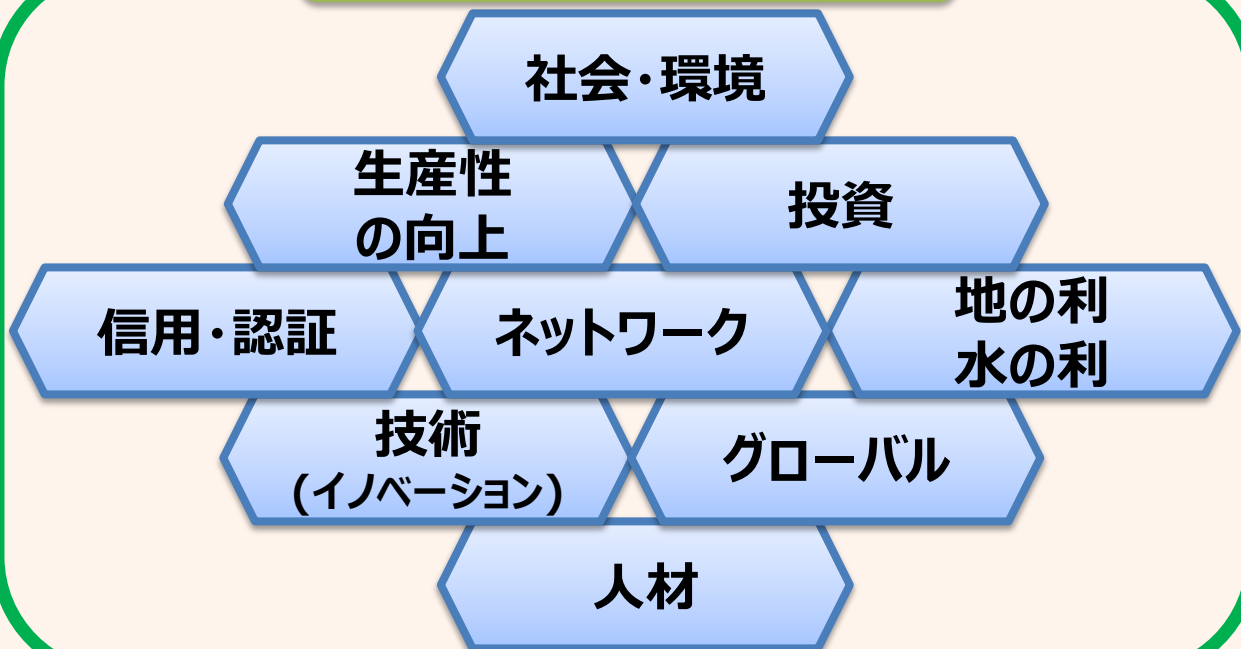


# 産業振興の基本的方向（2）

## 2030年の目指す姿

新しいテクノロジーやサービスの創出、積極的なコラボレーション、進化するインフラを活用して、「新たなチャレンジ」が日本で一番行いやすい県、「社会的課題」をビジネスで解決し続ける県を目指します！

### 産業を支える要素・側面



【ポイント①】  
2030年からバックカasting

【ポイント②】  
産業を支える要素・側面から振興を図り、本県を牽引する産業を創出

例：●●産業

例：■ ■産業

例：▲▲産業

⋮

# 産業振興の基本的方向（3）

県が民間のチャレンジを応援する方向性としてどのような視点が考えられるか。

<例>

チャレンジする人、  
企業が集まる

○社会的課題をビジネスで解決することにチャレンジする人、企業が集まるにはどうすればよいか

⋮

実証のメッカ、  
と言えば滋賀

○新しいテクノロジー等により、人口減少社会に立ち向かうための実証の場が県内に広がるにはどうすればよいか

⋮

健康しが、  
をビジネスに

○人・社会・自然の健康を、誰もを取り残されることなく、ビジネスの観点から進めるにはどうすればよいか

⋮

滋賀から世界、  
世界から滋賀へ

○滋賀の企業が持つ技術を世界に広げ、また、投資や人を世界から滋賀に呼び込むにはどうすればよいか

⋮

# 産業振興の基本的方向（４）

前頁の方向性に沿って、様々な主体の共創のもと、ビジネスの本業を通じて社会的課題の解決につながる、新たなチャレンジを応援します。

## （チェンジへのチャレンジの例）

チャレンジ①：  
挑戦する人の育成・確保

チャレンジ②：  
挑戦する人たちのネット  
ワーク形成

チャレンジ③：  
挑戦して活動する場の  
創出

チャレンジ④：  
地域の課題に向き合う  
取組を支援

チャレンジ⑤：  
世界を舞台にはばたく  
活動を支援

チャレンジ⑥：  
産業分野の融合を支援

チャレンジ⑦：  
人が集う、人を呼び込  
む

チャレンジ⑧：  
未来を切り拓く情報や技  
術、サービスが集積する

チャレンジ⑨：  
時代を変えていく新たな  
投資を呼び込む

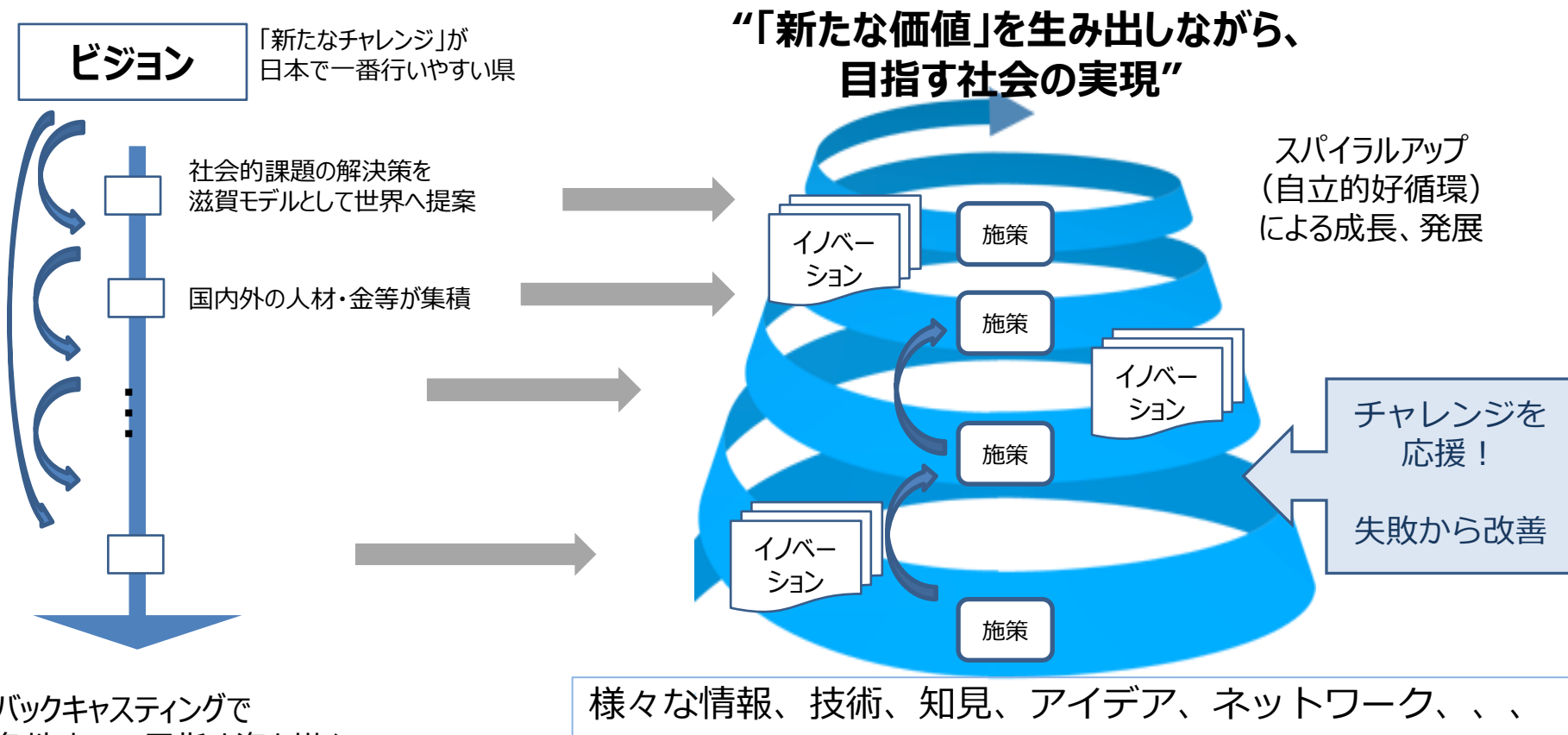
新しいテクノロジー・サービス、インフラ、ネットワーク



産業分野、業種、規模の大小にこだわらない、地域貢献企業（事業者）

# (参考資料) ビジョン実現に向けた産業振興の展開 (1)

社会的課題を解決していくには、刻々と変わる状況に柔軟に対応し数多く行動することが重要です。そのため、ビジョンでは当初の計画や数値目標の達成に力点が置かれる「P D C A」の考え方でなく、ビジョンの実現につながるイノベーションの創出に向け、成果を出すことに集中する「O O D A」(ウーダ)に見られる考え方を取り入れ、チャレンジを繰り返しながら施策を展開し、新たな価値を創出する産業振興の展開が図れないか検討します。



# (参考資料) ビジョン実現に向けた産業振興の展開 (2)



今までの「本県経済・産業の動向についてのモニタリング」に加え、「PDCA」による進行管理でなく、「OODA」(ウーダ)に見られる、ビジョン実現に向けた考え方を取り入れられないか検討します。

## O O D Aの概要

当初の計画や数値目標の達成に力点が置かれ「P D C A」と異なり、ビジョン実現に向けた成果を出すことに集中します。

O bserve(みる)	情報を収集します
O rient(わかる)	仮説を構築します
D ecide(きめる)	数ある選択肢から実行する施策を決定します
A ct(うごく)	施策を実行します

先の見通しが立てにくい状況でも、  
迅速な行動を促します

## O O D Aを起点とした理論

O O D Aの理論に基づき、数多くの手法が開発されています。

- デザイン思考
- システム思考
- アジャイル開発
- リーンスタートアップ

社会へ大きな影響をもたらした直近のサービスは  
これらの手法に基づいていることも多い

# (参考資料) 今後のスケジュール

月	審議会	企業等	経済団体等
4月～5月	5月29日(水) 第3回審議会(骨子案検討等)		
6月			
7月下旬	第4回審議会(原案検討等)		
8月			
10月	第5回審議会(とりまとめ) 審議会答申		
11月	定例会議に改定状況報告 (ビジョン案)		
来年2月	定例会議に議案上程	策定後、説明会開催	



# (参考資料) 戦後における本県の経済・産業の変遷



## I 本県の経済・産業の変遷

1950年代まで  
戦後復興期

- ・農業中心の産業構造
- ・琵琶湖の豊富な水資源を背景に、主に**繊維産業**が発展



1960～70年代  
高度経済成長期

- ・工業団地の造成による工場誘致
- ・電気・機械などの**大企業**の工場の立地
- ・大企業のサプライチェーンを支える**中小企業**が多数生まれるなど、**加工組立型産業**が集積



1980～90年代  
工業の量的拡大から質的向上へ

- ・理工系大学の誘致、滋賀県工業技術総合センターの設置による**研究開発型企业**の育成



2000年代  
グローバル化・IT化の進展

- ・産学官連携の推進、**高付加価値産業**の育成（環境産業、健康福祉産業、観光産業、バイオ産業、IT産業）



2010年代  
人口減少社会への対応

- ・我が国は「**人口減少社会**」へ。**国内外の課題解決に貢献する成長産業**を振興（水・エネルギー・環境、医療・健康・福祉等）
- ・IoT、AI等の活用、SDGs（持続可能な開発目標）の国連での採択



## II 県人口の推移

179千世帯  
86万人  
(1950年)

183千世帯  
84万人  
(1960年)

215千世帯  
89万人  
(1970年)

295千世帯  
108万人  
(1980年)

352千世帯  
122万人  
(1990年)

440千世帯  
134万人  
(2000年)

518千世帯  
141万人  
(2010年)

538千世帯  
141万人  
(2015年)

## III 県内総生産の推移(名目) ※

①:0.02兆円  
②:0.05兆円  
③:0.06兆円  
合:0.13兆円  
(1960年)

①:0.05兆円  
②:0.31兆円  
③:0.26兆円  
合:0.60兆円  
(1970年)

①:0.02兆円  
②:0.18兆円  
③:0.37兆円  
合:2.26兆円  
(1980年)

①:0.07兆円  
②:2.92兆円  
③:2.11兆円  
合:5.00兆円  
(1990年)

①:0.06兆円  
②:2.88兆円  
③:3.18兆円  
合:5.99兆円  
(2000年)

①:0.03兆円  
②:2.84兆円  
③:3.14兆円  
合:6.03兆円  
(2010年)

①:0.03兆円  
②:2.79兆円  
③:3.32兆円  
合:6.16兆円  
(2015年)

## IV 本県の産業振興の計画等

県勢振興の構想  
(1960年)

滋賀県総合開発計画  
(1964年)

滋賀県産業振興指針  
策定(1995年)

※以降、産業振興分野に特化した計画を策定

滋賀県産業振興新指針策定(2003年)

滋賀県産業振興新指針改定(2008年)

滋賀県産業振興戦略7ヵ年策定(2011年)

滋賀県産業振興ビジョン策定(2015年)

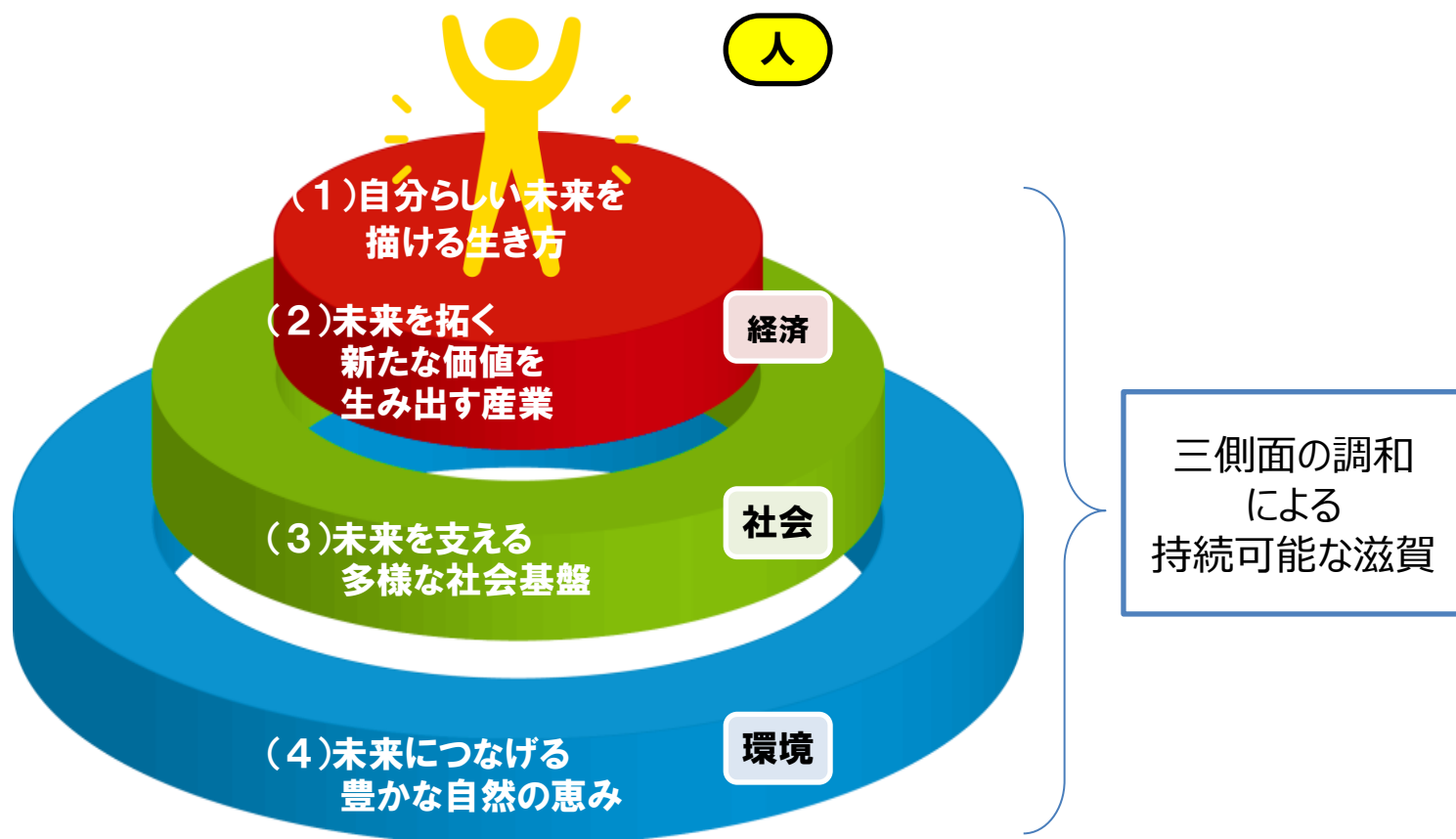
※車の両輪として推進

滋賀県中小企業活性化推進条例(2013年)

※①は第一次産業（農林水産業）、②は第二次産業（製造業、建設業、鉱業）、③は第三次産業（卸売・小売業、宿泊・飲食サービス、金融・保険業等）を指す。また、県内総生産（合計）は、①～③は四捨五入し、総資本形成に係る消費税等を含むため、合計額は一致しない。

# (参考資料) 滋賀県基本構想における基本理念 変わる滋賀 続く幸せ

三側面の調和による持続可能な滋賀を実現します。



# (参考資料) 滋賀県基本構想における経済の面からの具体的な「目指す姿」

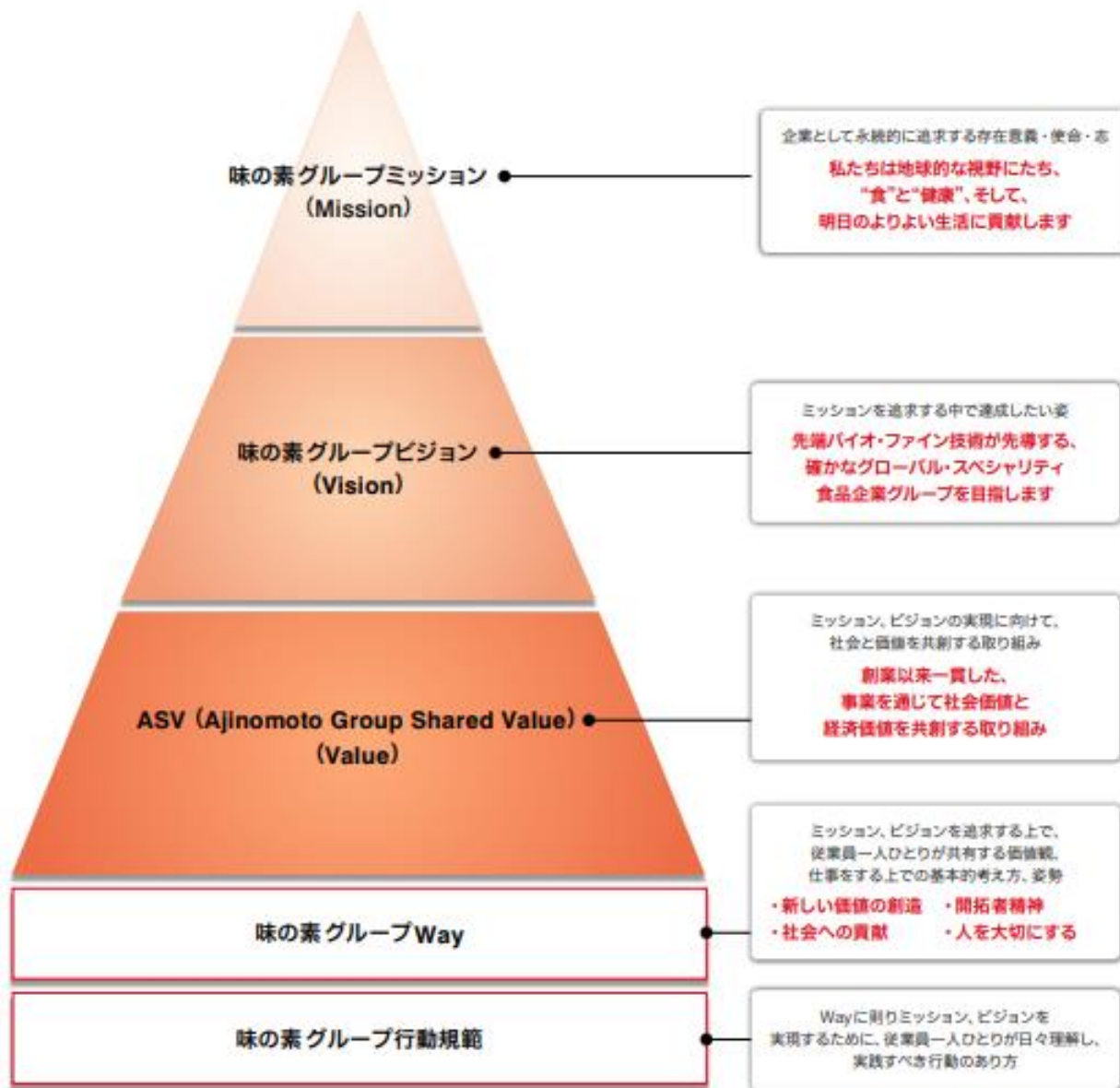


環境や社会への配慮、ICT、IoT、AI、ロボット技術、データ活用など第4次産業革命への対応、成長市場や成長分野を意識した産業創出・転換、事業展開等が進み、**社会的課題の解決に向けた取組**が広がるとともに、Society5.0時代における**滋賀の成長を支える多様な産業と雇用が創出されています。**

## 具体的な目指す姿

- SDGsの理念が県内企業に浸透しています。
- 高度なエネルギー利用が強みとなっています。
- 多様な人材が活躍できるダイバーシティ経営の広がりにより、強い経営が実現されています。
- 先端技術により、生産性が向上し、新たなサービスや製品が生まれています。
- 組織を超えた交流が進み、新たなサービスや製品が生まれ、起業なども活発になっています。
- グローバル市場への展開が進んでいます。
- 働く場としての魅力向上により、人材確保・定着が進んでいます。
- 大学等との連携により、人材育成が進んでいます。
- 適切な事業承継が行われ、地域の活力が維持されています。
- 力強い農林水産業が確立し、新たな担い手の確保・育成が進んでいます。
- 環境や安全・安心などにこだわった高い付加価値を持つ農林水産物が生産されています。
- 滋賀を訪れる人が増加し、その効果が様々な産業に現れています。

# (参考資料) 味の素「our philosophy」



# (参考資料) 滋賀県商工会連合会「滋賀県 商工会ビジョン」

